

Express クイック スタート ガイド

次の節では、Express ソフトウェアのインストール方法と使用方法について説明します。

目次

I.	システム要件
II.	インストール要件
III.	EXPRESS ソフトウェアのインストール
IV.	インストール後の考慮事項
V.	COMMCELL CONSOLE の開始
VI.	EZ 操作ウィザードを使用したバックアップ ターゲットの構成
VII.	EZ 操作ウィザードを使用したデバイス ステータスの確認
VIII.	EZ 操作ウィザードを使用した重複除去対応ディスク ライブラリの作成
IX.	EZ 操作ウィザードを使用したバックアップの実行
X.	COMMCELL CONSOLE を使用したバックアップ履歴の表示
XI.	EZ 操作ウィザードを使用したデータのブラウズとリストア
XII.	EZ 操作ウィザードを使用したソフトウェアのインストール
XIII.	EZ 操作ウィザードの表示
XIV.	これ以後の操作
XV.	EXPRESS ソフトウェアのバージョン サポート
XVI.	EXPRESS ソフトウェアのアンインストール

I. システム要件

このバージョンの Express ソフトウェアを使用するための最小要件は次のとおりです。

項目	説明
コンピュータ/プロセッサ	Intel Pentium または同等の 650 MHz 以上のプロセッサをお勧めします。
メモリ	少なくとも 512 MB の RAM が必要です 仮想メモリの容量は、使用可能物理メモリの 2 倍の容量に設定する必要があります。
ハード ディスク	ソフトウェアのインストール、および将来のデータ増加に備えて 2.5 GB のログ ディスク領域が必要です。
オペレーティング システム	WINDOWS XP

Microsoft Windows XP Professional 32-bit Edition

WINDOWS SERVER 2003

Microsoft Windows Server 2003 32-bit Edition および x64 Edition とサービス パック 1 以降

WINDOWS SERVER 2008

Microsoft Windows Server 2008 32-bit Edition および x64 Edition*

* Core Edition はサポートされません。

* Windows 2008 Web Server にソフトウェアをインストールする場合は、事前にソフトウェア プロバイダに連絡してください。

周辺機器 DVD-ROM ドライブ
ネットワーク インターフェイス カード (TCP/IP サービスが構成されていること)

ディスプレイ VGA 以外の任意のモード

その他 Microsoft® SQL Server 2008 Express Edition サービス パック 1

- インストール中に、SQL Server 2008 データベース インスタンスと適切なサービス パックが自動的にインストールされます。

Microsoft Internet Explorer (IE) バージョン 5.01、6.0、7.0、8.0

- すべての Microsoft Windows 2003 プラットフォームでは、オペレーティング システムと共に Microsoft Internet Explorer (IE) が自動的にインストールされます。



ソフトウェアは、バージョン 1.6.x 以降の JRE を使用すれば機能できます。

バージョン 1.6.0_06 またはそれ以降の JRE を使用できる場合は、ソフトウェアは既存の JRE ソフトウェアを使用します。

1.6.0_05 以下のバージョンの JRE を使用できる場合、または一切のバージョンの JRE を使用できない場合は、JRE バージョン 1.6.0_16 のインストールが求められます。

IIS がインストールされて CommServe コンピュータで実行されている (または CommCell Console および IIS が別のコンピュータで実行されている) 場合は、ソフトウェアをインストールしなくても、CommCell Console をリモート Web ベース アプリケーションとして実行できます。ただし、この場合は JRE を手でインストールする必要があります。アプレット Java™ Runtime Environment (JRE) SE v1.6.0_06 を実行することが推奨されている場合は、ソフトウェア インストール ディスクからインストールできます。

ソフトウェアを圧縮ドライブにインストールしないでください。

COMMSERVE のインストールに関する注記

コンピュータには静的な IP アドレスが必要です。このバージョンのソフトウェアは、動的ホスト構成プロトコル (DHCP) をサポートしていません。

II. インストール要件

- ローカル管理者として、またはコンピュータの **Administrators** グループのメンバとしてコンピュータにログオンします。
- すべてのアプリケーションを閉じ、ウイルス対策、スクリーン セーバー、オペレーティング システム ユーティリティなどの自動的に実行されるすべてのプログラムを無効にします。さまざまなウイルス対策プログラムなどの一部のプログラムは、サービスとして実行される場合があります。開始する前にこのようなサービスを停止および無効にします。インストール後にこれらのサービスを再び有効化することができます。
- ここでは、**標準インストール**の実行手順について説明します。標準インストールには、CommServe、CommCell Console、MediaAgent、および File System iDataAgent のインストールが含まれます。追加コンポーネントのインストールを実行できる**カスタム インストール**を選択した場合は、インストール処理の手順が異なる場合があります。

III. EXPRESS ソフトウェアのインストール

「#1」というラベルの CD を CD-ROM または DVD-ROM ドライブにセットします。

インストール プログラムが自動的に開始されない場合:

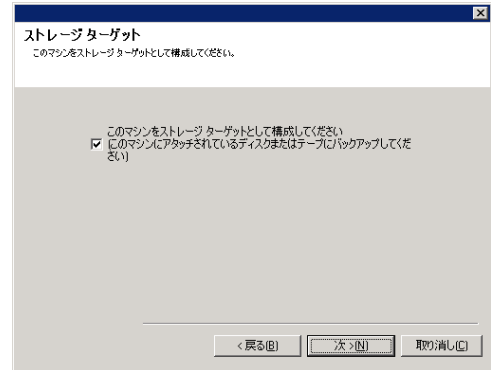
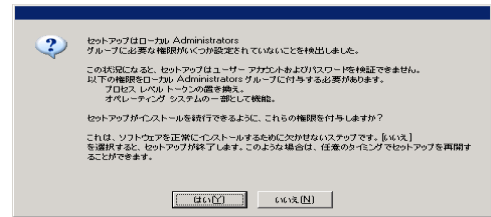
- Windows タスク バーの [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- CD-ROM または DVD-ROM ドライブを参照し、**Setup.exe** を選択して [開く] をクリックしてから [OK] をクリックします。

- インストール時に使用する言語を選択してください。 下矢印をクリックし、ドロップダウン リストから目的の言語を選択し、[次] をクリックして続行します。
- 新しい CommCell を作成するオプションを選択します。
- よろこ画面を読みます。
他のアプリケーションが実行されていない場合は、[次] をクリックして続行します。
- ウイルス検知ソフトウェアの警告を読みます。
ウイルス検知ソフトウェアが無効になっている場合は、[OK] をクリックして続行します。
- ライセンス契約を読み、[ライセンス契約の条項に同意する] を選択します。
[次] をクリックして続行します。

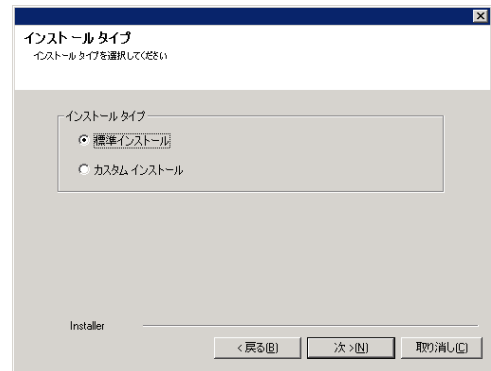
6. [はい] をクリックして、ローカル Administrators グループに必要な権限を設定します。

ノート

- このオプションは、ソフトウェアのインストールに使用された Windows ユーザー アカウントが、必要な管理者権限を持っていない場合にのみ表示されます (オペレーティング システムが新たにインストールされた場合など)。
 - [はい] をクリックすると、インストール プログラムによって、必要な権限がアカウントに自動的に割り当てられます。 インストールを続行するために、ログオフして再度ログオンすることを求められる場合があります。
 - [いいえ] を選択した場合は、インストールが強制終了されます。
 - インストールの最後に、これらの権限を失効するかどうかを決定するよう求められます。
7. このコンピュータをストレージ ターゲットとして構成する場合は、対応するチェックボックスをオンにします。 それ以外の場合は、チェックボックスをオフにします。
[次] をクリックして続行します。



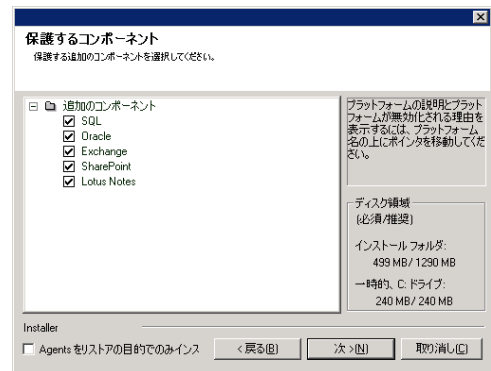
8. 実際のインストールに合わせて [標準インストール] または [カスタム インストール] を選択し、[次] をクリックして続行します。



9. 該当する場合は、インストールするコンポーネントを選択し、[次] をクリックして続行します。

ノート

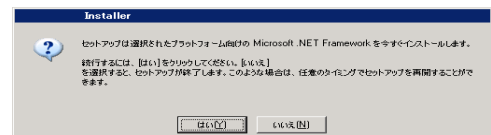
- 表示される画面は、サンプルとは異なる場合があります。
 - 追加コンポーネントのインストールを選択した場合は、選択したコンポーネントを構成するための追加手順の実行が求められます。
10. [OK] をクリックして、Microsoft .NET Framework をインストールします。



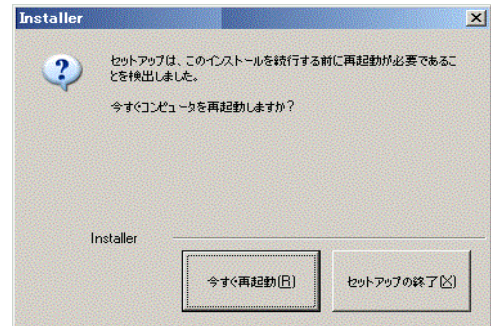
10. [OK] をクリックして、Microsoft .NET Framework をインストールします。

ノート

- このオプションは、コンピュータに Microsoft .NET Framework がインストールされていない場合にのみ表示されます。
11. システムの再起動メッセージが表示される場合があります。 その場合は、以下のいずれかを選択します。
- [再起動のスキップ]
このオプションが表示される場合は、インストール プログラムによって、ソフトウェアに必要であり、現在使用中で置換する必要があるファイルが検出されたことを示します。 この時点で、コンピュータを再起動します。 再起動後にインストール プログラムが自動的に続行されます。
 - [セットアップの終了]



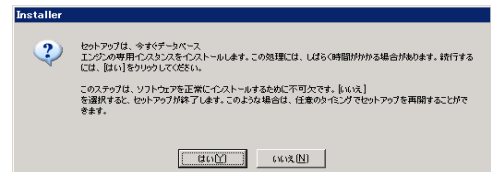
インストール プログラムを終了する場合は、[セットアップの終了] をクリックします。



12. [はい] をクリックして、CommServe サーバー専用の Microsoft SQL Server インスタンスをセットアップします。

ノート

- このプロンプトは、SQL Server データベース インスタンスがこのコンピュータにインストールされていない場合のみ表示されます。
- [いいえ] をクリックすると、インストール プログラムが終了します。



13. データベース エンジンのインストール パスを入力します。

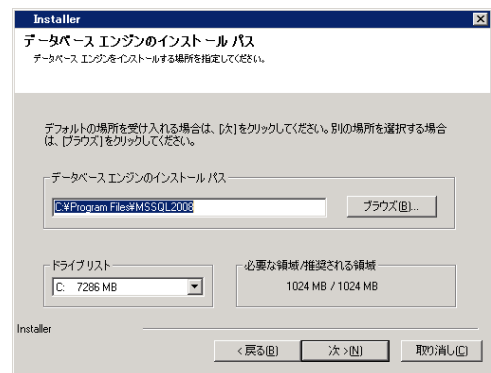
ノート

- この場所に Microsoft SQL Server のシステム データベースをセットアップします。
- CommServe コンピュータに VSS を使用したバックアップを実行する場合、CommServe データベースをシステム ドライブにインストールしないことをお勧めします。VSS リストア中、System State を正常にリストアできなくなることがあります。

[ブラウズ] をクリックして、ディレクトリを変更します。

[次] をクリックして続行します。

インストール プログラムによって、データベース インスタンスがインストールされます。



14. 必要に応じて、ソフトウェア更新の FTP ダウンロードとインストールを自動的に行うこのオプションを選択します。

ノート

- このオプションを選択しない場合は、これらの更新を後で CommCell Console からスケジュールすることができます。

[次] をクリックして続行します。



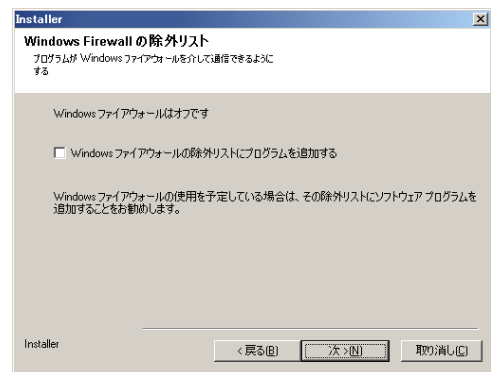
15. CommCell プログラムとサービスを Windows ファイアウォール除外リストに追加する場合は、[Add programs to the Windows Firewall Exclusion List] を選択してください。

ノート:

- Windows ファイアウォールがコンピュータで有効になっている場合は、このオプションはデフォルトで選択されており、インストールを続行するには有効にする必要があります。
- Windows ファイアウォールがコンピュータで無効になっている場合は、このオプションを選択して、ファイアウォールがその後有効にされたときに、ファイアウォール上で有効にされた CommCell 操作にプログラムとサービスを追加できます。

このオプションをインストール中に選択するか、またはインストール後にプログラムとサービスを追加することができます。インストール後にプログラムとサービスを追加する方法については、「Windows ファイアウォールを構成して CommCell 通信を許可する」を参照してください。

[次] をクリックして続行します。



16. [最新更新パックのダウンロード] を選択すると、このエージェントのインストールの最後に最新のサービス バックおよびポスト バック (利用できる場合) が自動的にダウンロードされ、インストールされます。

ノート

- 更新をダウンロードするには、インターネット接続が必要です。
- 更新は、以下のディレクトリにダウンロードされます。
<ソフトウェア インストール>/Base/Temp/DownloadedPacks
これらは、サイレントに開始され、最初のインスタンスに自動的にインストールされます。

[次] をクリックして続行します。

17. ソフトウェアをインストールする場所を指定します。

ノート

- マップされたネットワークドライブにソフトウェアをインストールしないでください。
- 宛先パスを指定するときは、次の文字を使用しないでください。
/ : * ? " < > | ! ; @ ^]
英数字のみを使用することをお勧めします。

[ブラウズ] をクリックして、ディレクトリを変更します。

[次] をクリックして続行します。

18. [Commcell のパスワードチェックを有効にしてください] をクリックしてパスワードを有効にしてから、[次] をクリックして続行します。 パスワードを使用して CommCell Console を開くようにする必要がある場合は、[次] をクリックして続行します。

ノート

- このユーザー名とパスワードは、CommCell Console へのログオンに使用されます。CommCell Console は、コンピュータでバックアップ、リストア、およびその他の関連機能を開始するときに使用されます。
- パスワードを入力した場合は、そのログイン名とパスワードを書き留めておいてください。 後で CommCell Console を開くときに便利です。

19. ソフトウェア更新を自動的にダウンロードするには、[Setup Software Cache] オプションを選択します。

ソフトウェア更新をスケジュールして FTP で自動ダウンロードするには、[自動更新の FTP ダウンロードをスケジュールする] を選択します。

[次] をクリックして続行します。

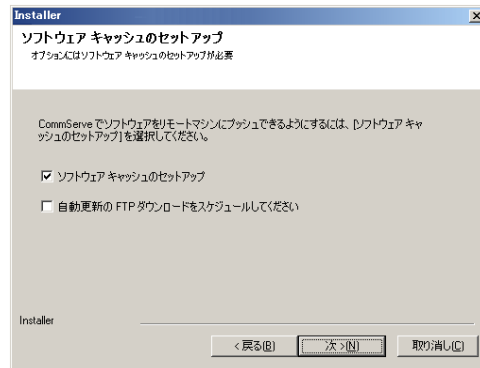
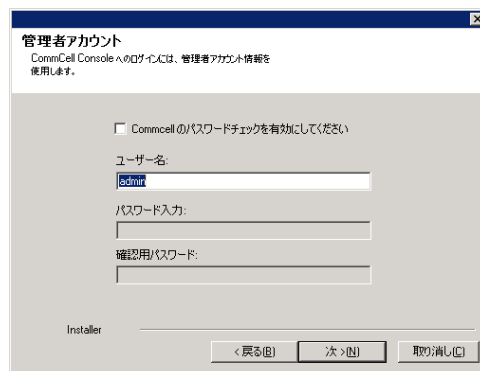
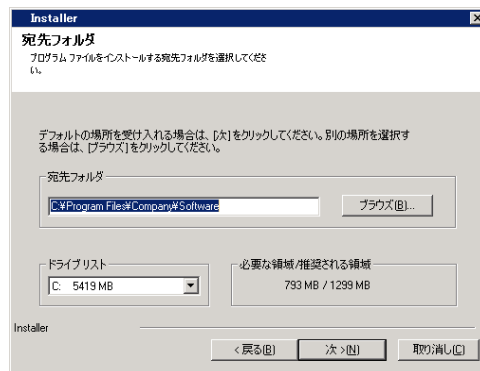
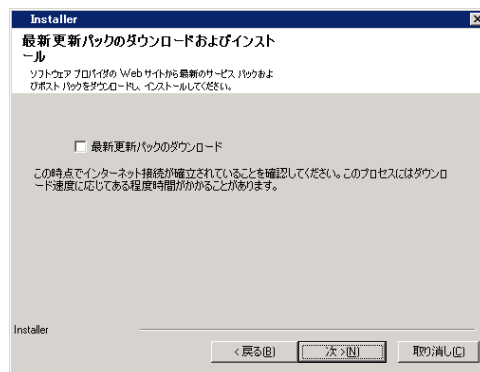
20. 選択されたオプションのサマリを確認します。

ノート

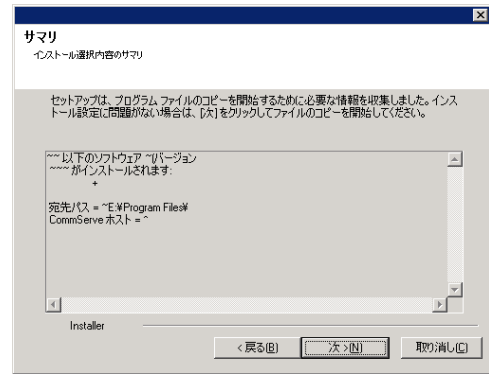
- 実際の画面に表示される [サマリ] の内容は、例とは異なります。

[次] をクリックして続行するか、または [戻る] をクリックしてオプションを変更します。

これで、インストール プログラムによって、コンピュータへのソフトウェアのコピーが開始されます。 このステップは完了まで数分かかる場合があります。

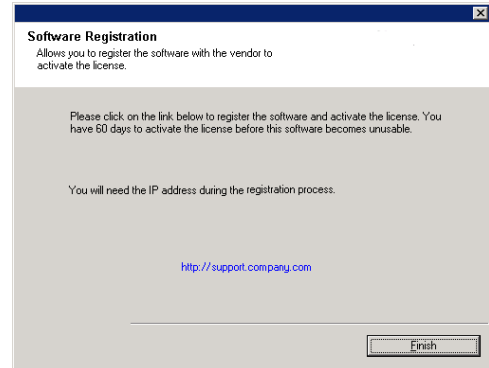


21. リンクをクリックして、ソフトウェアを登録してライセンスを認証します。
[次] をクリックして続行します。

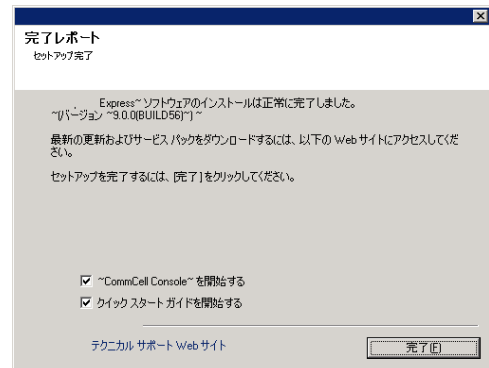


22. [完了] をクリックします。インストール プログラムが終了し、CommCell Console が起動されます。
ノート

- CommCell Console またはクイック スタート ガイドを起動しない場合は、該当するオプションをオフにしてから [完了] をクリックします。



23. [ユーザー名] と [パスワード] に必要な情報を入力して CommCell Console に接続し、[OK] をクリックして続行します。



24. ライセンス認証をまだ行っていない場合は、リマインダ プロンプトが表示されます。続行するには、[OK] をクリックしてください。

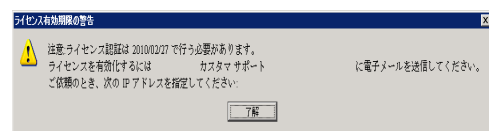
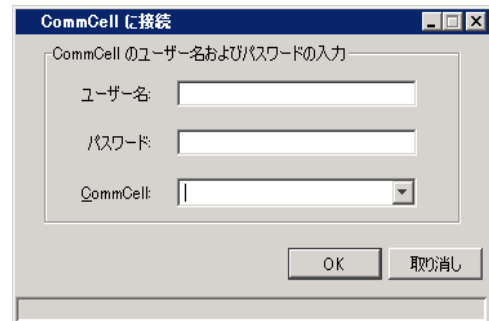
ノート

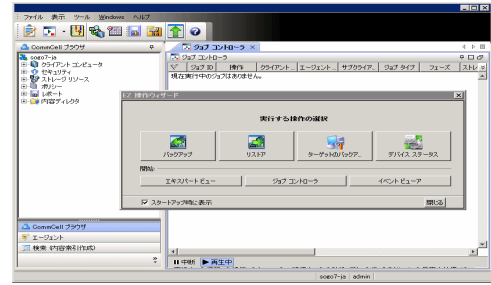
- 表示される画面は、サンプルとは異なる場合があります。

25. CommCell Console が表示されます。

ノート

- 表示される画面は、サンプルとは異なる場合があります。





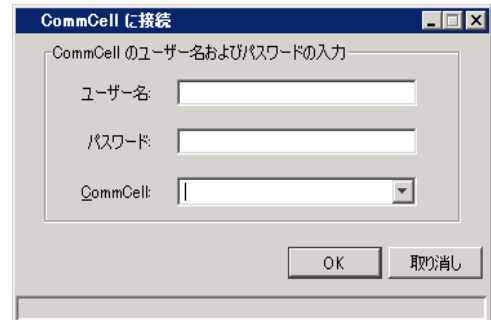
IV. インストール後の考慮事項

- ソフトウェアによって使用されるデータベース インスタンスでは、SQL Server の特定の設定が必要となります。SQL Management Studio を使用して SQL Server システムのストアード プロシージャ (sp_helpsort) を実行し、SQL プロパティを表示して次の設定を確認してください。
- このソフトウェアのリリース後に発表された、リリース後更新やサービス パックをインストールします。または、[自動更新] を有効にして、CommCell の更新をすばやく簡単にインストールすることもできます。詳細については、Books Online を参照してください。
- ソフトウェアのインストールが完了すると、EZ 操作ウィザードと CommCell Console を使用して、バックアップ ターゲットやテープ ローテーションを構成したり、最初のバックアップ ジョブを実行したりできるようになります。また、次の節で説明するその他の手順も実行できます。

V. COMMCELL CONSOLE の開始

CommCell Console は、バックアップとリストアの実行に役立つグラフィカル ユーザー インターフェイスです。CommCell Console を使用することで、バックアップ データの制御と管理に役立つその他多数の機能を実行することもできます。次の節では、CommCell Console の表示方法について説明します。

- [スタート] | [プログラム] メニューから CommCell Console を開始するか、またはデスクトップ上の CommCell Console アイコンをクリックします。
- [ユーザー名] と [パスワード] に必要な情報を入力し、接続する CommCell の名前を入力します。続行するには、[OK] をクリックしてください。



- ライセンス認証をまだ行っていない場合は、リマインダ プロンプトが表示されます。続行するには、[OK] をクリックしてください。

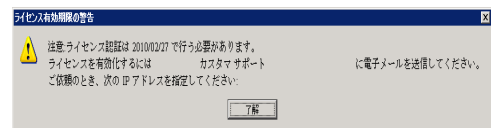
ノート

- 表示される画面は、サンプルとは異なる場合があります。

- CommCell Console は、EZ 操作ウィザードを使用して表示されます。

EZ 操作ウィザードを使用することで、次の操作を実行できます。

- ライブラリ (バックアップ ターゲット) とテープ ローテーションの構成
- データのバックアップまたはリストア
- CommCell Console でのエクスポート ビュー、イベント ビューア、またはジョブ コントローラの選択
- CommCell Console からのソフトウェアのインストール
- デバイス ステータスの表示



VI. EZ 操作ウィザードを使用したバックアップ ターゲットの構成

次の節では、EZ 操作ウィザードを使用してバックアップ ターゲットを構成する方法について説明します。

- EZ 操作ウィザードの [バックアップ ターゲット] ボタンをクリックします。

- EZ 操作ウィザードには、ライブラリとテープ/光学 デバイスの構成プロセスが表示されます。
- 適切な情報を入力した後、[サマリ] ダイアログで選択内容を確認し、次に [完了] をクリックして変更内容を保存するか、または [戻る] をクリックして前のダイアログに戻り、選択内容を変更します。

VII. EZ 操作ウィザードを使用したデバイス ステータスの確認

次の節では、EZ 操作ウィザードを使用してデバイスのステータスを確認する方法について説明します。

- EZ 操作ウィザードの [デバイス ステータス] ボタンをクリックします。
- [ライブラリの選択] ダイアログ ボックスで、詳細を表示するライブラリ (テープまたはディスク) を選択します。
- 選択した後、選択したライブラリのステータスが [ステータス] フィールドに表示されます。
テープの内容を表示および削除したり、次にバックアップするときに必要なに応じてメディアを上書きするオプションを選択することができます。
- [OK] をクリックします。

ノート

- EZ 操作ウィザードを使用したデバイス ステータスの確認は、スタンドアロンドライブに対してのみ実行できます。他のライブラリに対してデバイス ステータスを確認する場合は、ストレージポリシー コピーのデータ エージング オプションを使用して構成できます。データ エージングの詳細については、Books Online を参照してください。

VIII. EZ 操作ウィザードを使用した重複除去対応ディスク ライブラリの作成

次の節では、EZ 操作ウィザードを使用して重複除去対応ストレージ ターゲットでディスク ライブラリを作成する方法について説明します。

- EZ 操作ウィザードの [バックアップ ターゲット] ボタンをクリックします。
- デバイス構成タイプとして [ディスク ライブラリ] を選択します。
- [Disk Library Configuration] ステップで、使用するディスク ライブラリを選択してバックアップ先フォルダを指定します。バックアップ宛先フォルダがネットワーク共有上にある場合には、[編集] をクリックしてユーザー アカウントの詳細情報を入力します。
- [重複除去ポリシーの作成] ステップで、[重複除去の有効化] をクリックして次の詳細を指定します。
 - 重複除去ストアにアクセスする MediaAgent
 - 重複除去ストアの場所
- [保持期間パラメータの入力] ステップで、バックアップを保持するディスク容量と保持期間を設定します。
- [サマリ] 画面で、選択したオプションを確認し、[完了] をクリックして重複除去対応ディスク ライブラリを作成するか、または [戻る] をクリックして前のステップに戻り、選択内容を変更します。

IX. EZ 操作ウィザードを使用した EZ バックアップの実行

次の節では、EZ 操作ウィザードを使用して EZ バックアップを実行する方法について説明します。

- EZ 操作ウィザードの [バックアップ] ボタンをクリックします。
- EZ 操作ウィザードには、スケジュール、バックアップ オプション、およびアラートの構成プロセスが表示されます。
- 適切な情報を入力した後、[サマリ] ダイアログで選択内容を確認し、次に [完了] をクリックして変更内容を保存するか、または [戻る] をクリックして前のダイアログに戻り、選択内容を変更します。
- バックアップの開始後は、ジョブの進行状況を [ジョブ コントローラ] で確認できます。
- [ジョブ コントローラ] に表示されるジョブのステータスが「完了」に変わると、バックアップは完了です。

X. COMMCELL CONSOLE を使用したバックアップ履歴の表示

バックアップの実行後に、バックアップ データの表示が必要になる場合があります。この情報は、バックアップ履歴に表示されます。次の節では、バックアップ履歴の表示方法について説明します。

- CommCell® ブラウザで、"デフォルト" のサブクライアントを右クリックし、[バックアップ履歴] をクリックします。
[バックアップ履歴フィルタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- [OK] をクリックします。

[バックアップ ジョブ履歴] ウィンドウには、完了したばかりのバックアップ ジョブが表示されます (定期バックアップの実行を開始すると、そのサブクライアントのすべてのバックアップ ジョブのリストが表示されます)。

[ジョブ バックアップ履歴] ウィンドウ内の任意の行を右クリックすると、以下の情報が表示されます。

- バックアップに失敗したファイル (ある場合)
- バックアップ ジョブの詳細
- バックアップ ジョブのメディア
- バックアップ ジョブのイベント
- バックアップされるファイルのリスト
- ログ ファイル

XI. EZ 操作ウィザードを使用したデータのブラウズとリストア

次の節では、EZ 操作ウィザードを使用して EZ リストアを実行する方法について説明します。

1. EZ 操作ウィザードの [リストア] ボタンをクリックします。
2. EZ 操作ウィザードには、ブラウズ オプション、上書きオプション、およびリストア先の選択プロセスが表示されます。
3. 適切な情報を入力した後、[サマリ] ダイアログで選択内容を確認し、次に [完了] をクリックして変更内容を保存するか、または [戻る] をクリックして前のダイアログに戻り、選択内容を変更します。


XII. EZ 操作ウィザードを使用したソフトウェアのインストール

次の手順では、EZ 操作ウィザードを使用してコンピュータにソフトウェアをインストールする方法を説明します。

1. EZ 操作ウィザードの [Install Software] ボタンをクリックします。
2. インストール ウィザードから、クライアント コンピュータにソフトウェアをインストールするために必要な手順が示されます。
3. 必要な情報を入力した後、[サマリ] ダイアログで選択内容を確認し、次に [完了] をクリックして変更内容を保存するか、または [戻る] をクリックして前のダイアログに戻り、選択内容を変更します。

XIII. EZ 操作ウィザードの表示

EZ 操作ウィザードには、次の方法でアクセスできます。

- CommCell Console のツールバーにある [EZ 操作ウィザード] ボタン () をクリックする。
または
- CommCell Console の [ツール] をクリックし、[コントロール パネル] をクリックして [EZ 操作ウィンドウ] をダブルクリックする。

EZ 操作ウィザードが表示されます。

XIV. これ以後の操作

これで CommServe、MediaAgent、および File System iDataAgent はインストールされました。 また、ソフトウェア用のグラフィカル ユーザー インターフェイスである CommCell Console もインストールされています。 さらに、個々のクライアント コンピュータに 1 つ以上のエージェントをインストールすることで、特定のオペレーティング システムまたはアプリケーションについてデータ保護操作およびデータ リカバリ操作を実行できます。 コンピュータ上にあるすべてのタイプのデータを保護するために、複数のエージェントを使用することができます。 Express バージョンのソフトウェアでサポートされているエージェントの詳細については、以下の Express ソフトウェアのバージョン サポートを参照してください。

CommCell Console はまた、データの保護およびリカバリを支援するさまざまな機能を提供しています。以下に例を示します。

- バックアップのスケジュール (Books Online の「スケジュールリング」を参照)
- アラートの構成 (Books Online の「アラートおよびモニタ」を参照)
- ライブラリの構成 (Books Online の「ライブラリおよびドライブ構成」を参照)
- 障害復旧の計画 (Books Online の「小規模ビジネスまたは単一サイトでの CommServe の障害復旧の計画」を参照)
- およびその他多数の操作

複数のコンピュータへのソフトウェアのインストール方法など、CommCell の概要については、Books Online の「はじめに」を参照してください。

XV. EXPRESS ソフトウェアのバージョン サポート

各 Express ソフトウェア ライセンスは、CommCell 内の次のコンポーネントの設定と構成をサポートします。

- 15 クライアント
- 1 MediaAgent
- 1 ライブラリ

サポートされるコンポーネント

CommServe、CommCell Console、MediaAgent、および File System iDataAgent に加えて、Express バージョンのソフトウェアは、以下のコンポーネントもサポートします。

- Active Directory iDataAgent (Active Directory Offline Mining を含む)
- ContinuousDataReplicator
- Lotus Notes/Domino Server iDataAgent
- Macintosh File System iDataAgent
- Microsoft Data Protection Manager
- Microsoft Exchange Server iDataAgents (Exchange Offline Mining を含む)
- Microsoft SharePoint Server iDataAgent (SharePoint Offline Mining を含む)
- Microsoft SQL Server iDataAgent
- NAS NDMP クライアント
- NetWare Server iDataAgent
- Novell GroupWise iDataAgent
- Oracle iDataAgent
- SRM Server
- Unix File System iDataAgent
- Virtual Server iDataAgent
- Workstation Backup エージェント

これらのコンポーネントの詳細については、Books Online を参照してください。

他のサポート考慮事項

Express バージョンのソフトウェアでは、次の操作は実行できません。

- ジョブの優先度設定
- 一時停止状態のジョブの開始
- ポリシーのスケジュール
- 動的ドライブ共有 (DDS)
- 複数のユーザーまたはユーザー グループの作成
- 合成完全バックアップ
- 操作ウィンドウ
- メディアのリスト
- メディアの消去
- レポートのスケジュール
- カスタム カレンダー

Express バージョンのソフトウェアでは、次のレポートは使用できません。

- ユーザー機能
- ストレージ ポリシー コピーのジョブ

XVI. EXPRESS ソフトウェアのアンインストール

次の節では、コンピュータから Express ソフトウェアをアンインストールする方法について説明します。

1. [スタート]、[コントロール パネル] の順にクリックし、[プログラムの追加と削除] をクリックします。
2. [プログラムの追加と削除] ダイアログでコンポーネントを次の順序で除去します。まずコンポーネントを選択し、次に [削除] をクリックします。

- File System ;DataAgent (Instance001)
- MediaAgent (Instance001)
- CommCell Console for Java (Instance001)
- CommServe (Instance001)

3. これでアンインストールは完了です。

[トップに戻る](#)
